



社団法人 日本病理学会  
〒113-0033  
東京都文京区本郷2-40-9  
ニュー赤門ビル4F  
TEL: 03-5684-6886  
FAX: 03-5684-6936  
E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp  
http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第276号

平成23年(2011年)1月刊

## 1. 理事会および総会

平成22年11月24日(第56回秋期特別総会の前日)に西日本総合展示場にて理事会を、11月25日には同会場にて総会を開催した。これらの理事会、総会では、理事長報告、各種委員会委員長報告を行った。

理事会では、第101回(平成24年度)総会宿題報告担当者、平成23年度名誉会員有資格者、平成22年度上期新入会員、をそれぞれ協議して決定した。

総会では、平成21年度収支決算修正案、平成23年度事業計画並びに収支予算、選挙制度改革案、日本病理学会100周年記念事業、会費規程改定案、第58回(平成24年度)秋期特別総会会長および第102回(平成25年度)総会会長について協議し、それぞれ原案のとおり決定した。

## 2. 学術集会

### (1) 第56回(平成22年度)秋期特別総会

産業医科大学を世話機関として橋本洋会長のもとで、平成22年11月25日(木)～26日(金)の2日間、西日本総合展示場にて開催された。特別講演1題、学術研究賞演説(A演説)7題、B演説4題、シンポジウム2件10題、病理診断シリーズ2題、International Poster Sessionの発表と討論が行われた。26日には市民公開講座が、会期後には、IAP病理学教育シンポジウム・スライドセミナーが開かれた。

(2) 今後の予定されている学術集会は、以下のとおりである。

#### 1) 第100回(平成23年度)総会

世話機関：東京大学

会長：深山正久教授

会期：平成23年4月28日(木)～30日(土)

会場：パシフィコ横浜

#### 2) 第57回(平成23年度)秋期特別総会

世話機関：昭和大学

会長：諸星利男教授

会期：平成23年11月17日(木)～18日(金)

会場：日本教育会館

#### 3) 第101回(平成24年度)総会

世話機関：慶應義塾大学

会長：岡田保典教授

会期：平成24年4月26日(木)～28日(土)

会場：京王プラザホテル

#### 4) 第58回(平成24年度)秋期特別総会

世話機関：藤田保健衛生大学

会長：黒田誠教授

会期および会場は未定

#### 5) 第102回(平成25年度)総会

世話機関：札幌医科大学

会長：佐藤昇志教授

会期および会場は未定

## 3. 理事長報告

### (1) 選挙制度改革案について

2010年3月18日常任理事会準備会、4月14日常任理事会において、理事、理事長、監事候補の選挙制度につき意見交換の結果、選挙制度改革案を作成し、企画委員会、理事会に諮ることとした。候補者の選出は正会員の投票から学術評議員の投票に変更し、選出された候補者を総会において選任することとなった。

4月26日の企画委員会および理事会においてこの改革案が承認された。

4月27日の学術評議員会及び4月28日会員総会において案を説明し、学会ホームページに案を掲載して会員からの意見募集を6月から7月末まで行ったが、賛成意見のみ

### 病理専門医研修指導医について

既報の標記指導医につきまして、平成18年4月1日付、平成19年4月1日付、平成20年4月1日付、平成21年4月1日付および平成22年4月1日付の指導医証発行を受けられていない病理専門医(ただし平成17年度認定病理専門医まで)で、平成23年4月1日付指導医証の発行をご希望の方は病理学会事務局までご連絡ください。

TEL: 03-5684-6884

FAX: 03-5684-6936

で反対意見はなかった。

9月16日の常任理事会で改革案が会員に理解されたと判断し、施行細則などの変更案の作成を行うことにした。

10月15日、11月12日の常任理事会において定款施行細則案、学術評議員内規について意見交換し変更案を確定した。

- (2) 来年度（平成23年度）の病理学会カンファレンス  
世話人：中山淳信州大学教授  
日時：平成23年8月5日（金）・6日（土）  
会場：ホテルブエナビスタ（長野県松本市）  
テーマ：「病理学におけるグライコーム研究—神経・筋、感染症、がん、再生医学—」
- (3) 名誉会員の推戴に関する書類として、理事会には経歴書を添付して諮ることとした。今秋には書式を検討することとした。総会には従来通り氏名のみを公表する。
- (4) 新学術評議員の推薦に関しては、提出された業績等を理事会で回覧することとした。
- (5) 専門医制評価・認定機構に青笹理事長が出席し、その報告があった。今後、この機構の活動については、十分な注意が必要であるとのことであった。
- (6) 「人材育成委員会」から要望のあった、病理学会ホームページでの求人広告掲載に制限を設けず市中病院以外からのものも受け付けることを了承した。
- (7) 来年の病理診断講習会時に、「医療安全講習会」を実施するが、これを病理専門医の更新資格にするべきかどうかについては、病理専門医制度運営委員会にて検討することとした。
- (8) 支部学術集会へ常任理事会メンバーが参加し意見交換を行うこととした。
- (9) 学術集会の座長候補者の参考リストを各支部長の推薦をもとに、佐藤学術委員長と白石支部選出学術委員会委員長が中心となり作成した。
- (10) 病理医不足解消について厚生労働省より具体的なデータの提出の依頼、病理学会の要望等に関する質問があった。今後、病理医の不足状況を多面的に示すデータをもとにした要望を行っていくためにアンケート調査をおこなうこととした。
- (11) 平成22年度病理専門医試験について、深山病理専門医制度運営委員長より報告があった。81名が受験し62名の合格で、合格率は75.6%であった。平成24年3月の細胞診講習会は東京大学を会場に、日本医大土屋眞一世話人のもとで行われる予定である。平成23年度試験は7月30日（土）・31日（日）に東京医科大学にて実施予定である。なお、平成23年度より研修医手帳使用者の受験がはじまり、また全ての受験者が剖検40体以上と剖検講習会受講に一元化される。
- (12) 認定施設のメーリングリストを作成することとし、その運用については常任理事会があたることとした。メールアドレスの収集については、認定施設へ

「平成20年年報」を送付する際に調査票を同封し、約320施設より回答があった。

- (13) 痛取り扱い規約に関する専門病理医へのアンケートを実施することとした。秋の「お知らせ」配布の際にアンケートを同封して配布し、ファックスにより回答を回収中である。
- (14) 公益法人化に向けて勉強会を再開することとした。メンバーは向井・寺田副理事長、上田財務委員長、佐々木毅、坂元享宇、福本学、池田栄二学術評議員。公益認定社団法人か、一般社団法人か、目指す方向を検討する。
- (15) 9月29日の学術委員会において、第102回総会時の宿題報告候補者選考が行われた。10名の応募があり、審議の結果3名を選考した。
- (16) 学術総会の活性化のために、学会員以外の研究者の春の学術総会への参加を促す方策について学術委員会を中心に検討中である。
- (17) 2010年9月29日、浙江大学において日中病理学交流協定の調印が行われた。
- (18) 各種セミナーの講演料や委員旅費について、規定を作るよう文部科学省の指導があり財務委員会で検討後、理事会に提案することとし、最終的には2月の理事会で報告することとした。

#### 4. 各種委員会委員長報告

##### (1) 企画委員会（向井 清委員長）

###### ① 新公益法人制度移行について

12月より新ワーキンググループにて「公益法人」と「一般社団法人」それぞれのメリットデメリットを検証し、本学会としての方向性を来年4月総会で会員に提示する予定である。また平成25年11月が申請期限になるので、迅速な作業が必要であることが確認された。

##### (2) 広報委員会（岡田保典委員長）

HPを年度内に刷新する予定で準備を行っており、財務委員会で予算が承認されている。施行業者は笹氣出版印刷を選定した。また会員専用サイト以外をUMINサーバーから民間のレンタルサーバーへ移行する予定である。

##### (3) 財務委員会（上田真喜子委員長）

- ① 文科省の指導により、平成21年度収支決算の文言を一部修正する必要がでたため、その修正案を承認した。
- ② 平成23年度事業計画並びに収支予算案を承認した。
- ③ 来年度からの会費値下げに伴う規定改定案を承認した。
- ④ 支部会計を本部会計に合算するよう文科省から指導があった。この件につき、各支部長とも相談しながら常任理事会で検討を行うこととした。
- ⑤ 日英交流事業の「Japan-European Collaborative Award in Pathology」の採用が2件に増加したことに伴う予算増額を今回に限り承認した。

- ⑥ 文科省の指導により各種セミナー等講演料規定を作成する必要があるため、担当理事と相談しながらすすめる。委員旅費規定も同様に策定する。例えば都内交通費の拠出なども検討している。
- (4) 学術委員会（佐藤昇志委員長）  
本委員会では学術集会活性化と若手研究者の育成について検討をしている。その一環として、「病理学会座長候補参考リスト」案を支部学術委員会と作成した。100回総会時より参考にさせていただきたい。また今後も同委員会、学術アドバイザーとともに持続的に改定を加えていく予定である。
- (5) 研究推進委員会（安井 弥委員長）
- ① 第8回病理学会カンファレンスを2011年8月5日（木）～6日（金）に信州大学 中山 淳教授を世話人に松本市のホテルブエナビスタにて開催する。テーマは「病理学におけるグライコム研究—神経・筋、感染症、がん、再生医学—」である。
- ② 第7回病理学会カンファレンスを2010年8月6日（金）～7日（土）に岡山大学松川昭博教授を世話人に岡山コンベンションセンターにて開催した。テーマは「炎症と免疫、癌」であった。
- ③ カンファレンスの若手参加者を増やすために、委員会と連携した広報の充実、専門医資格更新単位の増加、専門医受験資格への組み込み、若手優秀発表者の顕彰等の提案があった。また実施に際しては十分な広報期間が必要であることも確認された。
- (6) 編集委員会(覚道健一委員長 代理 向井 清理事)
- ① Pathology International について  
・投稿数は昨年より減少し300編程度になる予想である。会員のからの積極的な投稿が望まれる。採択率は国内53%、海外26%であった。  
・現在1.521のImpact factorをあげるため、いくつかの試みを開始する。
- ② 診断病理  
・投稿はこれまでどおり九州・沖縄支部が一番多いが、他支部からの投稿も増えている。  
・一般患者がインターネット上で自身の症例報告を閲覧したという事例があった。会員制限をかけた閲覧等を学会として検討されたい。
- ③ 剖検輯報  
・現在第52輯のデータベースのデータを収集している。  
・科学研究費の申請を本年も行った。ここ数年獲得できていないが、国際性を求められているとの情報があり、今後の課題である。  
・会員より個人情報取り扱いの疑義があったが、十分に配慮されている旨委員長より回答した。
- (7) 病理専門医制度運営委員会（深山正久委員長）
- ① 資格審査委員会報告  
病理専門医資格更新は本年426名の申請があり、うち15名に書類不備があった。この15名には12月末までに書類の再提出を求めて、その最終審査を行う。不備の主なものは、学会参加証の提出が少ない、参加証の一部分の提出しかない、記名がされていないなどである。
- ② 施設審査委員会報告  
・新規認定施設：9件申請中7件は認定可となったが2件は剖検不足のため不可となった。  
・新規登録施設：認定不可の2件を含む35件の申請があり、すべて登録可となった。
- ③ 日本専門医制評価・認定機構の件  
・研修施設のサイトビジットの依頼があったので対応を考えたい。  
・ワーキンググループをつくりこの団体の機構・歴史等概要をまとめて会員に報告できるようにし、今後どのように対応していくかは常任理事会・理事会で慎重に検討を続けることにした。
- ④ 来年度からの受験資格は剖検例が50例以上から40例以上に変更になり、剖検講習会の受講が必須となる。また研修手帳使用者の受験が開始される。
- ⑤ 研修手帳については、HPからダウンロードする現在の方式から学会が冊子体を作成し配布する方法への変更要望が強いので、常任理事会で検討することにした。
- (8) 医療業務委員会（根本則道委員長）
- ① 社会保険委員会報告（委員長 稲山嘉明）  
・平成24年度診療報酬改定にむけて、内保連へ提出する提案事項の順位付けを行った。  
・要望の第1位は病理診断管理加算の新設であり、これは常勤病理医の重要性を適切に評価することが目的で、検体管理加算や画像診断管理加算との整合性をとりたい。  
・第2位は病理診断料の見直しで、すべての独立診断毎に算定可能にしたい。  
・第3位は医政局とも連携し、開業医を含めた全ての病理診断科で保険請求ルートを確立することである。  
・第4位は細胞診断料の見直しで、婦人科細胞診断にも適用可能にすることである。  
・第5位は全剖検標本における加算、算定臓器数の見直しである。
- ② 病理診断体制専門委員会報告（委員長 佐々木毅）  
・病理医不足について政府に働きかけるためにも基礎資料が必要であるため、この件につき大学・認定施設・登録施設に協力いただきアンケートを実施する予定である。  
・教室プローベや検査所での診断など、現在違法性が指摘されている「医療機関外での病理診断」について、それを解消するような方策をたてるために別途アンケートを実施することを考えている。
- ③ 剖検・病理技術委員会報告（委員長 柳内広之）  
一人病理医をふくめた医療現場の過労が問題になっているため、医師数・技師数について、適正数算出式を検討し、

提示したいとの報告があった。ただし、実際の医療現場の人員数とかげはなれないよう充分配慮をする。

- ④ 精度管理委員会報告（委員長 鬼島 宏）
  - ・乳癌ワーキンググループ：乳癌の免疫染色（ER, PgR, HER2）に関する精度管理の実践。
  - ・悪性腫瘍の遺伝子検査（EGFR 遺伝子, K-ras 遺伝子検査の実態把握（大腸癌, 肺癌）
- ⑤ コンサルテーション委員会報告（委員長 森谷卓也）
  - ・平成 23-4 年度ボード改定の準備を開始する。
  - ・平成 22 年度は上期の段階で 350 件以上の依頼があり、依頼数が増加している。
- (9) 口腔病理専門医制度運営委員会（山口 朗委員長）
  - ① 口腔病理専門医資格更新申請があり、審査の結果、3 名については書類不備のため再提出ののち再審議することになった。
  - ② 口腔病理専門医制度規程改訂案については理事会に諮ることとした。
- (10) 教育委員会（本山悌一委員長）
  - ① 新版の病理コア画像（HP）について、書籍化も検討されたが、この件への要望を把握できていない点、HP の完成度が不十分な面もあることから、当面見合わせることにした。
  - ② このコア画像についてはその使われ方や要望について調査を行いたい。
- (11) 国際交流委員会（笹野公伸委員長）
  - ① 日独病理学会交流事業については、来年横浜での総会にドイツから参加がある。
  - ② 日中交流事業について調印されたことにつき、その内容について下記の案が提示された。
    - ・2011 年秋の中国病理学会に、日本側の数名が参加し講演を行う。その際の旅費、滞在費は中国側が負担する。
    - ・2012 年春の日本病理学会総会には中国病理学会が選んだ中国側 2-3 名が参加する。その際の全員の旅費について 20 万円を限度に日本病理学会が支出する。
    - ・その際の学術集会長が中国側の参加者の学会期間中の宿泊費をカバーしシンポジウム、ワークショップ他で話してもらう。又これらの招聘者の学会登録費は免除する。
    - ・この案が承認されたら、中国側へ連絡し中国側での検討を進めることを要望する。
- (12) 支部委員会（橋本 洋委員長）
  - ① 各支部メーリングリストの充実が図られており、特にアクティブな会員のほとんどはメール登録されていることが報告された。学会本部での一括管理についても検討されたい旨意見がだされた。
  - ② 「教室プローベ」の今後の対応について意見交換を行った。
  - ③ 死因究明モデル事業については学会の使命の一つと考えており、その現状、今後について意見交換を行っ

た。また理事長より、日本医療安全調査機構の動向について随時報告を行うことが約束された。

- ④ 支部会計の本部会計への合算ついて、上田真喜子財務委員長から説明を受けた。この件については上田財務委員長を中心に常任理事会等で方策を検討していくことが確認された。
- (13) 市民公開講座委員会（吉野 正委員長）
 

最終日開催市民公開講座でアンケートを実施する予定である。
- (14) サマーフェスト委員会（松原 修委員長）
  - ① 本年は京都で悪性リンパ腫をテーマに行われた。その際委員会も開催した。
  - ② 来年は東京大学で脳腫瘍をテーマに行う予定である。
  - ③ 毎年 200 名を超える参加者があり、黒字でもあるので、当面継続とし、むこう 3 年程度の計画をたてたい。
  - ④ 交通の便や施設の面からも東京・京都交互開催を継続する。お世話になる京都大学の羽賀博典先生にはなんらかの形で委員会に加わっていただけるよう対応する。
- (15) 病理診断講習会委員会（向井 清委員長）
 

委員会は開催されていないが、現在横浜総会開催分の準備をすすめている。
- (16) 支部選出学術委員会（白石泰三委員長）
 

佐藤学術委員長の提示した座長リストの改定等を議題に明後日に委員会開催予定である。
- (17) 死因究明委員会（黒田 誠委員長）
  - ① 社団法人日本医療安全調査機構に黒田が担当理事として青笹理事長とともに出席している。
  - ② 同上のワーキング会議が詳細を検討しており、深山理事が出席している。
  - ③ 厚生労働省政務官直属の死因究明に資する死亡時画像診断の検討委員会が開催され、年内に検討内容の更新がされるみこみである。学会としてその動向には充分注意する。

なお、総会時会場において、岸川正大学術評議員より以下の発言があった。

昨年秋の総会で、長村義之前理事長より「全ての病理診断は医療機関で行わなくてはならない」との発言があったにもかかわらず、議事録から欠落している。この件を問い合わせてきたがまだ正式な回答がないため、再度確認をしたい。

この件について、まず根本則道医療業務委員長から、確かに受けているが、医療業務委員会の範疇を超える重要事項につき、青笹理事長が常任理事会を中心に検討中であるとの回答があった。また青笹理事長より、経緯をもう一度確認し、後日回答するとの発言があった。

## 5. 平成 21 年度収支決算修正案について

社団法人日本病理学会平成 21 年度収支決算書について、文部科学省の指導により、科目名の一部変更および 100 周年記念事業関係費の記載を明瞭化したため、修正案を提示し、原案のとおり決定した。

### 1) 収支計算書

平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
<b>I. 収入の部</b>				
<b>1. 基本財産運用収入</b>	<b>50,000</b>	<b>12,019</b>	<b>△ 37,981</b>	
受取利息収入	50,000	12,019	△ 37,981	
<b>2. 会費収入</b>	<b>71,510,000</b>	<b>74,692,000</b>	<b>3,182,000</b>	
正会員・学術評議員会費	29,000,000	29,212,000	212,000	
同終身会費	3,000,000	3,600,000	600,000	
同一般会員会費	27,000,000	29,323,000	2,323,000	
学生会員会費	10,000	0	△ 10,000	
賛助会員会費	150,000	150,000	0	
機関会員会費	350,000	335,000	△ 15,000	
病理専門医部会費	12,000,000	12,072,000	72,000	
<b>3. 事業収入</b>	<b>122,700,000</b>	<b>135,440,483</b>	<b>12,740,483</b>	
学術集会収入	80,000,000	94,330,511	14,330,511	
論文掲載料収入	900,000	1,160,828	260,828	
広告料収入	800,000	936,600	136,600	
刊行物発行収入	14,000,000	12,718,500	△ 1,281,500	
専門医制度収入	16,000,000	15,942,000	△ 58,000	
病理専門医部会収入	4,000,000	3,405,513	△ 594,487	
講習会等収入	4,500,000	4,421,000	△ 79,000	
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,525,531	25,531	
<b>4. 寄付金収入</b>	<b>0</b>	<b>3,680,000</b>	<b>3,680,000</b>	
100 周年記念事業寄付金収入	0	3,680,000	3,680,000	平成 21 年度より新規
<b>5. 特定資産取崩収入</b>	<b>2,700,000</b>	<b>23,199,890</b>	<b>20,499,890</b>	
学術医療振興基金取崩収入(終身会費分)	2,700,000	3,180,000	480,000	
学術医療振興基金取崩収入(100 周年記念事業用)	0	20,000,000	20,000,000	
100 周年記念事業引当預金取崩収入	0	19,890	19,890	寄付金振込料(受取人負担)
<b>6. 雑収入</b>	<b>3,400,000</b>	<b>4,732,353</b>	<b>1,332,353</b>	
受取利息収入	400,000	110,923	△ 289,077	
雑収入	3,000,000	4,621,430	1,621,430	
当期収入合計 (A)	<b>200,360,000</b>	<b>241,756,745</b>	<b>41,396,745</b>	
前期繰越収支差額	<b>44,851,000</b>	<b>62,864,620</b>	<b>18,013,620</b>	
収 入 合 計 (B)	<b>245,211,000</b>	<b>304,621,365</b>	<b>59,410,365</b>	

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
<b>II. 支出の部</b>				
<b>1. 事業支出</b>	<b>161,000,000</b>	<b>175,947,579</b>	<b>14,947,579</b>	
学術集会経費	84,500,000	93,061,189	8,561,189	
学会誌発行経費	29,000,000	27,317,770	△ 1,682,230	
会報発行経費	2,500,000	2,948,400	448,400	
剖検輯報刊行経費	10,500,000	10,921,737	421,737	
専門医制度運営経費	9,000,000	10,008,963	1,008,963	
病理専門医部会経費	8,000,000	8,429,997	429,997	
支部運営経費	6,500,000	6,500,000	0	
学術奨励等経費	4,500,000	3,174,705	△ 1,325,295	

講習会等経費	3,500,000	3,406,101	△ 93,899	
各種委員会経費	3,000,000	4,350,703	1,350,703	
事業人件費	0	5,828,014	5,828,014	管理費人件費より一部を科目変更
<b>2. 管理費</b>	<b>33,130,000</b>	<b>32,727,711</b>	<b>△ 402,289</b>	
人件費	15,000,000	8,464,998	△ 6,535,002	一部を事業人件費へ科目変更
福利厚生費	2,000,000	2,145,720	145,720	
交通費	300,000	270,000	△ 30,000	
通信運搬費	3,000,000	2,776,736	△ 223,264	
会議費	1,500,000	1,658,312	158,312	
印刷費	2,500,000	1,963,105	△ 536,895	
備品費	200,000	0	△ 200,000	
消耗品費	500,000	255,483	△ 244,517	
光熱費	230,000	241,254	11,254	
賃借料	2,700,000	3,958,243	1,258,243	OA 機器リース料
諸会費	900,000	900,000	0	
補助金	200,000	0	△ 200,000	
修繕費	100,000	0	△ 100,000	
嘱託料	2,000,000	2,458,500	458,500	
租税公課(消費税等)	1,500,000	1,088,500	△ 411,500	
(法人税等)	0	5,947,017	5,947,017	法人税等納付
雑費	500,000	599,843	99,843	
<b>3. 特定預金支出</b>	<b>4,600,000</b>	<b>28,925,864</b>	<b>24,325,864</b>	
退職給与引当預金取得支出	1,600,000	1,600,000	0	
学術医療振興基金取得支出	3,000,000	3,637,836	637,836	
国際交流基金取得支出	0	8,028	8,028	
100 周年記念事業引当預金取得支出	0	23,680,000	23,680,000	基金取崩および寄付金
<b>4. 予備費</b>	<b>1,000,000</b>	<b>0</b>	<b>△ 1,000,000</b>	
当期支出合計 (C)	<b>199,730,000</b>	<b>237,601,154</b>	<b>37,871,154</b>	
当期収支差額 (A-C)	<b>630,000</b>	<b>4,155,591</b>	<b>3,525,591</b>	
次期繰越収支差額 (B-C)	<b>45,481,000</b>	<b>67,020,211</b>	<b>21,539,211</b>	

### 2) 貸借対照表

平成 22 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額	
<b>I. 資産の部</b>		
<b>1. 流動資産</b>		
現金・預金	134,776,877	
前 払 金	423,654	
未 収 金	518,970	
流動資産合計		135,719,501
<b>2. 固定資産</b>		
基本財産		
基本財産	30,000,000	
基本財産合計	30,000,000	
その他の固定資産		
特定資産		
学術医療振興基金	98,990,518	
100 周年記念事業引当預金	23,660,110	
国際交流基金	20,133,830	
退職給与引当預金	17,500,000	
特定資産合計	160,284,458	
什器備品	84,957	
保証金	930,000	
その他固定資産合計	161,299,415	
固定資産合計		191,299,415
資産合計		<b>327,018,916</b>

<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
前受金	51,823,000		
未払金	14,971,166		
預り金	<u>1,905,124</u>		
流動負債合計		68,699,290	
2. 固定負債			
退職給与引当金	<u>17,500,000</u>		
固定負債合計		<u>17,500,000</u>	
負債合計			<b>86,199,290</b>
<b>III. 正味財産の部</b>			
正味財産			<b>240,819,626</b>
(うち基本金)			(30,000,000)
(うち正味財産当期増加額)			<u>(8,281,565)</u>
負債及び正味財産合計			<b><u>327,018,916</u></b>

## 3) 正味財産増減計算書

平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	12,019	49,694	△ 37,675
基本財産受取利息	12,019	49,694	△ 37,675
② 受取会費	74,692,000	69,363,000	5,329,000
学術評議員会費	29,212,000	27,030,000	2,182,000
一般会員等会費	33,408,000	30,621,000	2,787,000
病理専門医部会費	12,072,000	11,712,000	360,000
③ 事業収益	135,440,483	143,736,738	△ 8,296,255
学術集会収入	94,330,511	100,509,196	△ 6,178,685
論文掲載料収入	1,160,828	986,414	174,414
広告料収入	936,600	726,600	210,000
刊行物発行収入	16,124,013	17,801,053	△ 1,677,040
専門医制度収入	15,942,000	16,472,000	△ 530,000
講習会等収入	4,421,000	4,752,000	△ 331,000
賠償保険事務費収入	2,525,531	2,489,475	36,056
④ 受取寄付金	3,680,000	0	3,680,000
寄付金収入	3,680,000	0	3,680,000
⑤ 雑収入	4,732,353	11,162,576	△ 6,430,223
受取利息	110,923	361,241	△ 250,318
著作権協会分配金	899,200	899,200	
科学技術振興事業団	542,640	727,976	△ 185,336
Pathol Int ロイヤリティ	2,510,240	3,309,138	△ 798,898
医中雑刊著作権使用料	25,620	25,620	
刊行物編集協力金	621,240	621,240	
雑収入	22,490	6,764,221	△ 6,741,731
経常収益計	<b>218,556,855</b>	<b>224,312,008</b>	<b>△ 5,755,153</b>
(2) 経常費用			
① 事業費			
学術集会費	93,061,189	99,161,098	△ 6,099,909
学会誌発行費	27,317,770	30,640,588	△ 3,322,818
会報発行費	2,948,400	3,090,675	△ 142,275
剖検報発行費	10,921,737	11,008,914	△ 87,177
専門医制度運営費	10,008,963	9,370,081	638,882
病理専門医部会費	8,429,997	8,838,396	△ 408,399
支部運営費	6,500,000	5,850,000	650,000
学術奨励等費	3,174,705	2,880,391	294,314
講習会等経費	3,406,101	4,578,372	△ 1,172,271
各種委員会費	4,350,703	3,172,120	1,178,583
事業人件費	5,828,014	5,814,132	13,882

事業費計	175,947,579	184,404,767	△ 8,457,188
② 管理費			
人件費	8,464,998	8,328,807	136,191
福利厚生費	2,145,720	2,078,514	67,206
交通費	270,000	275,000	△ 5,000
通信運搬費	2,776,736	2,722,620	54,116
会議費	1,658,312	1,261,629	396,683
印刷費	1,963,105	1,623,896	339,209
消耗品費	255,483	316,062	△ 60,579
光熱水道費	241,254	236,371	4,883
賃借料	3,958,243	2,523,728	1,434,515
諸会費	900,000	900,000	0
嘱託料	2,458,500	3,351,000	△ 892,500
租税公課	7,035,517	6,045,000	990,517
雑費	599,843	559,560	40,283
管理費計	32,727,711	30,222,187	2,505,524
経常費用計	208,675,290	214,626,954	△ 5,951,664
当期経常増減額	9,881,565	9,685,054	196,511
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
退職給与引当金繰入	1,600,000	1,600,000	0
税引前一般正味財産増減額	8,281,565	8,085,054	196,511
法人税、住民税及び事業税			0
当期一般正味財産増減額	8,281,565	8,085,054	196,511
一般正味財産期首残額	232,538,061	224,453,007	8,085,054
一般正味財産期末残額	240,819,626	232,538,061	8,281,565
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残額	0	0	0
指定正味財産期末残額	0	0	0
III 正味財産期末残高	<b>240,819,626</b>	<b>232,538,061</b>	<b>8,281,565</b>

## 4) 財産目録

平成 22 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
<b>I. 資産の部</b>			
1. 流動資産			
(1) 現金・預金			
現金 現金手許有高	152,107		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	12,889,081		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	15,086,543		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	33,090,793		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	60,471,548		
普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店	140,622		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	929,077		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	361,659		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	9,606,077		
定期預金 みずほ銀行本郷支店	131,945		
郵便振替貯金	<u>1,917,425</u>		
現金・預金合計	<b>134,776,877</b>		
(2) 前払金			
家賃	195,300		
会費自動振替手数料	<u>228,354</u>		
前払金合計	<b>423,654</b>		
(3) 未収金			
学会誌発行収入等	<u>518,970</u>		
流動資産合計		<b>135,719,501</b>	

2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産	30,000,000		
(普通 三菱東京UFJ銀行本郷支店)			
基本財産合計	30,000,000		
(2) その他の固定資産			
特定資産			
学術医療振興基金	98,990,518		
(普通 三菱東京UFJ銀行春日町支店)			
100周年記念事業引当預金 (郵便振替貯金)	23,660,110		
国際交流基金	20,133,830		
(普通・りそな銀行本郷支店)			
退職給与引当預金	17,500,000		
特定資産合計	160,284,458		
什器備品	84,957		
保証金	930,000		
その他固定資産合計	161,299,415		
固定資産合計		191,299,415	
資産合計			327,018,916

科 目	金 額		
<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
(1) 前受金			
平成22年度会費・部会費等	51,823,000		
(2) 未払金			
英文誌印刷費等	2,785,000		
日病誌印刷費等	5,511,599		
会報印刷費	95,550		
諸印刷費	67,200		
諸会費	500,000		
未払消費税等	400,000		
未払法人税等	5,611,817		
未払金合計	14,971,166		
(3) 預り金			
英文誌カラー印刷	1,745,000		
源泉所得税等	160,124		
預り金合計	1,905,124		
流動負債合計		68,699,290	
2. 固定負債			
(1) 退職給与引当金	17,500,000		
固定負債合計		17,500,000	
負債合計			86,199,290
正味財産			240,819,626

## 6. 平成23年度事業計画並びに収支予算について

社団法人日本病理学会平成23年度事業計画並びに収支予算は、今総会において以下のとおり決定した。

○平成23年度事業計画（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

〔事業の概要〕

### I. 学術集会、研究会等の開催

#### 1. 学術集会の開催

- (1) 第100回日本病理学会総会（於横浜・深山正久会長）
- (2) 第57回日本病理学会秋期特別総会（於東京・諸星利男会長）

### 2. 研究会、講習会等の開催

- (1) 第8回日本病理学会カンファレンス
- (2) 細胞診講習会
- (3) 病理診断講習会
- (4) 各支部における学術・研究集会
- (5) 第5回診断病理サマーフェスト

### 3. 公開講座・シンポジウムの開催

### II. 学会誌、学術図書等の発行

1. 「日本病理学会会誌」の発行（第100巻第1～2号）
2. 「Pathology International」の発行（Vol. 61 4～12, Vol. 62 1～3）
3. 「診断病理」の発行（第28巻第2～4号, 第29巻第1号）
4. 「日本病理学会会報」の発行（第279～290号）
5. 「病理専門医部会報」の発行（2011年 第2～4号, 2012年 第1号）

### III. 研究および調査

1. 「日本病理剖検輯報」の発行 第52輯（平成21年症例）
2. 剖検輯報編集方法の変更・充実
3. 剖検記録データベースの再構築

### IV. 病理専門医等の資格認定

1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験の実施及び資格の更新
2. 病理専門医の広告
3. 研修手帳の実施
4. 研修施設の認定および資格の更新

### V. 学術団体との協力、連絡

1. 学術団体等との会議共催および後援
2. 腫瘍取扱い規約等の改訂
3. 海外病理学会との交流
- (1) 英国病理学会との会員の相互派遣、学術交流
- (2) ドイツ病理学会との学術交流
- (3) アジア各国との学術交流

### VI. その他目的を達成するために必要な事業

1. 日本病理学賞（宿題報告）の授与
2. 日本病理学会学術奨励賞の授与
3. 日本病理学会学術研究賞（A演説）の授与
4. 病理学卒前教育の充実
5. 病理診断コンサルテーションシステムの充実
6. インターネットホームページの充実
7. 医師賠償責任保険加入取扱いの実施
8. 病理専門医制度運営、医療業務、学術・研究等の各種委員会の開催
9. 日本病理学会100周年記念事業実施

## ○平成23年度収支予算

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
<b>I. 収入の部</b>				
<b>1. 基本財産運用収入</b>	<b>15,000</b>	<b>50,000</b>	<b>△ 35,000</b>	
受取利息収入	15,000	50,000	△ 35,000	
<b>2. 会費収入</b>	<b>60,630,000</b>	<b>70,560,000</b>	<b>△ 9,930,000</b>	
学術評議員会費収入	22,400,000	28,000,000	△ 5,600,000	会費 20,000 → 16,000
終身会費収入	3,000,000	3,000,000	0	
一般会員会費収入	22,740,000	27,000,000	△ 4,260,000	会費 15,000 → 13,000
学生会員会費収入	10,000	10,000	0	
賛助会員会費収入	150,000	150,000	0	
機関会員会費収入	330,000	400,000	△ 70,000	
病理専門医部会費収入	12,000,000	12,000,000	0	
<b>3. 事業収入</b>	<b>131,700,000</b>	<b>132,700,000</b>	<b>△ 1,000,000</b>	
学術集会収入	90,000,000	90,000,000	0	
論文掲載料収入	900,000	900,000	0	
広告料収入	800,000	800,000	0	
刊行物発行収入	13,000,000	14,000,000	△ 1,000,000	
専門医制度収入	16,000,000	16,000,000	0	
病理専門医部会収入	4,000,000	4,000,000	0	
講習会等収入	4,500,000	4,500,000	0	
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,500,000	0	
<b>4. 特定資産取崩収入</b>	<b>28,480,000</b>	<b>3,400,000</b>	<b>25,080,000</b>	
学術医療振興基金取崩収入	3,480,000	3,400,000	80,000	
100周年記念事業引当預金取崩収入	25,000,000	0	25,000,000	100周年記念 事業寄付繰越
<b>5. 雑収入</b>	<b>2,100,000</b>	<b>4,400,000</b>	<b>△ 2,300,000</b>	
受取利息収入	100,000	400,000	△ 300,000	
雑収入	2,000,000	4,000,000	△ 2,000,000	PIN ロイヤリ ティ無
当期収入合計 (A)	222,925,000	211,110,000	11,815,000	
前期繰越収支差額	53,961,000	45,481,000	8,480,000	
収 入 合 計 (B)	276,886,000	256,591,000	20,295,000	

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
<b>II. 支出の部</b>				
<b>1. 事業費</b>	<b>172,500,000</b>	<b>166,500,000</b>	<b>6,000,000</b>	
学術集会経費	89,000,000	89,500,000	△ 500,000	
学会誌発行経費	15,000,000	15,000,000	0	
会報等発行経費	2,000,000	3,000,000	△ 1,000,000	会報 PDF「お 知らせ」郵送
剖検輯報刊行経費	11,000,000	11,000,000	0	
専門医制度運営経費	10,000,000	9,000,000	1,000,000	
病理専門医部会経費	8,000,000	8,000,000	0	
支部運営経費	6,500,000	6,500,000	0	
学術奨励等経費	3,000,000	3,500,000	△ 500,000	
講習会等経費	3,500,000	4,500,000	△ 1,000,000	
各種委員会経費	3,500,000	3,500,000	0	
事業人件費	8,000,000	8,000,000	0	
100周年記念事業経費	13,000,000	0	13,000,000	新規
租税公課 (法人税等)	0	5,000,000	△ 5,000,000	管理費支出へ
<b>2. 管理費</b>	<b>32,050,000</b>	<b>28,530,000</b>	<b>3,520,000</b>	
人件費	10,000,000	10,000,000	0	
福利厚生費	2,500,000	2,500,000	0	
交通費	400,000	400,000	0	
通信運搬費	2,700,000	3,000,000	△ 300,000	
会議費	2,000,000	2,000,000	0	
印刷費	2,000,000	2,500,000	△ 500,000	
備品費	200,000	200,000	0	
消耗品費	300,000	500,000	△ 200,000	
光熱費	250,000	230,000	20,000	
賃借料	4,000,000	2,700,000	1,300,000	OA 機器リース 料含む
諸会費	900,000	900,000	0	
修繕費	100,000	100,000	0	

嘱託料	2,500,000	2,500,000	0	
租税公課 (消費税等) (法人税等)	700,000	500,000	200,000	
	3,000,000	0	3,000,000	事業費支出よ り
雑費	500,000	500,000	0	
<b>3. 特定預金支出</b>	<b>4,600,000</b>	<b>4,600,000</b>	<b>0</b>	
退職給与引当預金取得支出	1,600,000	1,600,000	0	
学術医療振興基金等取得支出	3,000,000	3,000,000	0	
<b>4. 予備費</b>	<b>1,000,000</b>	<b>3,000,000</b>	<b>△ 2,000,000</b>	
当期支出合計 (C)	210,150,000	202,630,000	7,520,000	
当期収支差額 (A-C)	12,775,000	8,480,000	4,295,000	
次期繰越収支差額 (B-C)	66,736,000	53,961,000	12,775,000	

## 7. 第58回(平成24年度)秋期特別総会会長の選出について

第58回(平成24年度)秋期特別総会会長は、黒田誠教授(藤田保健衛生大学)に決定した。

## 8. 第102回(平成25年度)総会会長の選出について

第102回(平成25年度)総会の会長は、佐藤昇志教授(札幌医科大学)に決定した。

## 9. 第101回(平成24年度)総会宿題報告担当者等の決定について

- 平成24年度宿題報告担当者は、上田真喜子(大阪市立大学)、澤田典均(札幌医科大学)、中村卓郎(癌研究会癌研究所)の学術評議員に決定した。
- 平成23年度病理診断シリーズ講演者は、秋山太(癌研究会癌研究所)、三上芳喜(京都大学)の学術評議員に決定した。

## 10. 平成22年度認定施設、登録施設(第33回)審査について

認定施設、登録施設としての新規の申請は、9件、35件であった。審査の結果、認定施設は7件、登録施設はすべてが承認された。認定(登録)期間は、平成22年4月1日から平成24年3月31日までである。

## (1) 認定施設

認定番号 病院名

- |      |                       |
|------|-----------------------|
| 3140 | (財)東京都保健医療公社東部地域病院    |
| 4090 | 山田赤十字病院               |
| 5087 | 社会医療法人長生会府中病院         |
| 5088 | 医療法人橘会東住吉森本病院         |
| 5915 | 関西医科大学附属枚方病院          |
| 6053 | 独立行政法人労働者健康福祉機構中国労災病院 |
| 7043 | 公立学校共済組合九州中央病院        |



## (2) 登録施設

登録番号	病院名
1009	国家公務員共済組合連合会札幌医療センター 斗南病院
1035	岩見沢市立総合病院
1036	市立千歳市民病院
1037	市立稚内病院
2032	大館市立総合病院
3073	富士重工業健康保険組合総合太田病院
3076	社会福祉法人浴風会浴風会病院
3121	国際医療福祉大学病院
3122	原町赤十字病院
3123	館林厚生病院
3124	なめがた地域総合病院
3125	医療法人柏堤会戸塚共立第1病院
3906	東京女子医科大学附属八千代医療センター
4092	福井県済生会病院
4116	社会医療法人厚生会木沢記念病院
5062	社会医療法人誠光会草津総合病院
5095	市立岸和田市民病院
5096	橋本市民病院
5097	医療法人健生会土庫病院
5098	宝塚市立病院
5902	近畿大学医学部堺病院
6029	社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院
6061	心臓病センター榊原病院
6062	独立行政法人国立病院機構岩国医療センター
6063	山口県厚生農業協同組合連合会小郡第一総合 病院
6064	済生会山口総合病院
6065	総合病院山口赤十字病院
6066	宇部興産株式会社中央病院
7012	熊本赤十字病院
7075	朝倉医師会病院
7076	中津市民病院
7077	健康保険諫早総合病院
7078	社会医療法人仁愛会浦添総合病院
7079	医療法人沖繩徳洲会中部徳洲会病院
7901	久留米大学医療センター

## 11. 常任理事会報告（平成22年10月・11月・12月）

## ◎第5回（平成22年10月15日（金））

1. 選挙制度改革については、学術評議員により理事、理事長、監事候補者の選出（投票）を行い、総会で正会員の出席のもとに理事、理事長、監事を選任することを記載した細則や指針の改定案を検討した。選挙改革に即した文言の改訂も行うこととした。改定案を再度検討し、11月の常任理事会で決定して理事会、総会に諮ることとした。
2. 公益法人化に向けて勉強会を再開することとする。

メンバーは向井・寺田副理事長、上田財務委員長、および学術評議員委員として、佐々木毅学術評議員と坂元亨宇学術評議員が残り、新たに福本学（東北大学）、池田栄二（山口大学）の両学術評議員に加わってもらうこととした。公益認定社団法人か、一般社団法人か、目指す方向を決定する必要がある。平成23年秋を目処に定款を策定する予定。

3. 佐藤学術委員長より、9月29日に学術委員会があり、第102回総会時の宿題報告候補者選考が行われたとの報告があった。10名の応募があり、審議の結果3名を選考したので11月の理事会に提案をすることとした。
4. 佐藤学術委員長より、総会時の座長候補者リスト作成については支部選出学術委員および支部長等に候補者の推薦を依頼中であり、11月の学術委員会を経て、理事会に提案の予定であるとの報告があった。
5. Pathology International への投稿数が今年度減少しているとの報告があった。
6. 春の学術集会への演題登録について、現状は全員病理学会員であることとなっているが、学術総会の活性化のためにこの縛りはずし、学会員以外の研究者の参加を促す方策について学術委員会で検討し、理事会に諮ることとした。
7. 病理医不足に関するアンケートについては、市中病院（認定施設）と大学講座に送り、後者の場合に病理部門が独立している場合は、アンケート用紙を病理部に回していただくようレターに記載する。また、常勤病理医個々へのアンケート用紙は、複数人いる場合、コピーにて対応していただくよう、これもレターに記載することとした。
8. 日本病理学会認定施設メーリングリスト整備については、メールアドレス等を調査中である。
9. 日中病理学交流協定については、青笹理事長が訪中し2010年9月29日に浙江大学において調印を行ってきた旨の報告があった。今後、日中病理学交流促進のための委員会を国際交流委員会の中に設置するか否かについて、国際交流委員会において、検討中である。
10. 102回日本病理学会総会と第58回秋期特別総会の会長応募書類を検討した。11月の理事会に諮ることとした。これに関連して、特に春の総会会長公募の時期を現在より早め、実施の3年前にすることも理事会に諮ることとした。承認されれば、104回（平成27年）総会会長の公募を平成24年春に行う予定である（応募を早めるアナウンス期間が必要なため）。
11. ハーセプチンに関する厚生労働大臣への要望書が、国立がん研究センター東病院的落合淳志学術評議員から諮られた。意見交換の結果、まず社会保険委員会にて検討する必要があるとの結論に達し、この旨を落合先生に通知し、社会保険委員会の稲山嘉明委員長に検討のお願いをすることとした。

12. 9月17日にあった100周年企画記念事業委員会からの常任理事会への説明会議事録について、一部説明不足のところがあったので、修正を依頼した。
13. 8月に開催されたサマーフェストについて、松原修委員長より報告があった。来年のサマーフェストの開催は決定しているが、それ以降3年間についても実施したい旨の提案があり、謝金等諸経費の算定方法などの実施要領についての検討を行う必要があるものの、実施については了承した。
14. 「編集協力：日本病理学会」となっている文光堂発行の『腫瘍病理鑑別診断アトラス』について、これまでの経緯（決定に際しての議事録等）と編集協力費に関する資料を事務局より提出して頂くこととした。これに関連して出版物に病理学会編集協力等、病理学会の出版への関与の記載を認める場合の基準を検討する必要があるとの意見が出された。
15. 11月の秋期特別総会時に開催される「全国大学病院病理部連絡会議」の案内・内容について、深山病理専門医部会長から説明があった。

◎第6回（平成22年11月12日（金））

1. 秋期特別総会時開催（11月24日）の理事会での理事長報告を検討した。総会での理事長報告は例年通り同日開催の各種委員会報告を含めて行うこととした。
2. 選挙制度改革案については、まず選挙制度改革（役員候補選出を従来の正会員の投票から学術評議員の投票に変更）を行うことの議決をとった後、定款施行細則の具体的な文言の改定を提案することとした。具体的な文言の改定案を予め企画委員会および理事会に送付することとした。また、選挙制度に関する細則や指針に加えて、学術評議員内規の改定案も提案することとした。
3. 100周年記念事業の進捗状況について、深山理事より報告があった。進捗状況については、発起人に経過報告等の文書を配布してご理解をいただくこととした。寄付金は現在のところ、会員からは約2,000万円、企業等協賛は約500万円である。
4. 病理専門部会の活動について深山部会長より報告があった。11月26日（学会2日目）に開催される全国大学病院病理部連絡会議での議題の紹介があり、来年の病理専門医試験から新試験制度での受検が始まるので、受験資格等につき、特に注意を促したいとのことである。また、日本専門医制評価・認定機構が各学会の専門医研修施設のうち数施設のサーベイを行うことになっており、それに関するヒアリングを本日（11月12日）に受けることになっている。
5. 平成21年度収支決算について、科目名等につき文部科学省の指導を受けたことに伴い収支決算修正案を理事会・総会に提案することになった。作成された修正案を財務委員長が検討し、若干の訂正をおこない、理事会・総会に提案することとした。また、

100周年記念事業の収支予算案についても理事会・総会に呈示することとした。

6. 各種セミナーの講演料や委員旅費について、規定を作るよう文部科学省の指導があり財務委員会で検討後、理事会に提案することとした（最終的には2月の理事会）。
7. 会費の値下げについては、春の総会で承認されているので、会費規程等の文言の変更を理事会・総会に提案することとした。また、会費納入の時期（現在は前納）を、該当年の6月末にすること、終身会費を現在の「学術評議員会費5年分相当額」を「10万円」とすることも提案することとした。
8. 病理医不足に関するアンケート調査を行うが、集計は、病理診断体制専門委員会（佐々木毅委員長）が行うこととした。集計に伴う事務人件費経費の支出も予定している。
9. 理事会の協議事項である名誉会員推薦に関する資料および新入会員の資料は、事前に理事に郵送して（取扱注意）、お目通し願うこととした。
10. 口腔病理専門医制度規程の改定について、山口理事より提案資料があり、理事会協議事項として理事会資料とすることとした。
11. 11月6日（土）開催の中国四国支部交見会に向井理事が参加し、その報告があった。病理専門医の適正配置基準策定や、学部学生に対する相談コーナーを設けてはどうか等の意見があり、対応を検討することとした。
12. 同じく11月6日（土）開催の九州沖縄支部スライドカンファレンスに寺田理事が参加し、その報告があった。大学プロベの地域での病理診断に果たす役割、研究費の獲得における重要性を十分考慮してこの問題の対策を考えてほしい旨の要望があった。
13. 学会演題登録者の会員資格有無について、各学会の対応表が佐藤理事から呈示された。これに関しては、学術委員会を中心に検討を進めることとした。
14. 故遠城時宗知名誉会員の奥様からの寄付打診につき検討した。寄付を受け入れる方向で詳細を青管理事長がお尋ねすることとした。
15. 読売新聞社のアンケート調査につき、会員からの問い合わせがあった。読売新聞社から認定施設住所資料提供等の協力要請があったが、9月の常任理事会で協議の結果、これには応じないこととしており、その理由は“収集したデータの取り扱い等、掲載の内容が明らかでないため”である。このため、対応は各施設のご判断にお任せすることにする」と回答することとした。

◎第7回（平成22年12月17日（金））

1. 選挙制度改革の役員選任方法について、秋期総会前日の企画委員会（11月24日）において提起された、学術評議員によって選出された役員候補者の総会での選任に出席会員より異議があがった場合の対応方

法について、向井企画委員長の作成した案を検討した結果、これをもとに最終案を作成し、次回の理事会に諮ることとした。最終案は1月の常任理事会において確認することとした。対処方法は「役員候補者の総会での選任は理事会の申し合わせにより行う」ことを、役員選出方針指針に追加することにした。

2. 「病事情報管理ネットワークセンター運営委員会」(仮称)の設置に際しては、親委員会を設け、その下に、技術担当とコンテンツ担当の2委員会をおくことが望ましいことが確認され、100周年記念事業事務局に検討を依頼することとした。
3. 公益法人化ワーキンググループの本年度第1回会議を本日举行予定である。
4. 学術活動について
  - (1) 座長候補リストは「座長候補参考リスト」とし、引き続き内容確認を行う。また個人情報でもあるので、データベースにはパスワードを設定し、事務局で管理することにした。他学会からの依頼等も想定した利用規程をつくることとし、その案を学術委員会を中心に検討することにした。
  - (2) 総会演題登録資格については、「筆頭演者は会員であること」と変更する方向で検討している。素案を1月の常任理事会に提出し、2月の学術委員会および理事会で決定し、101回総会演題登録より適用したい。
  - (3) 「Pathology International」のインパクトファクター向上について、学術委員会で検討した具体案を常任刊行委員会へ提案することにした。
  - (4) 第102回札幌総会日程について相談があり、5月後半から6月前半が予定されている旨、佐藤会長より報告された。
5. 現在多くの「癌取り扱い規約」が出版されているが、それについて本学会の関与の仕方は様々であり、印税や、出版経費に対する対応も一様ではないことが確認された。このため、(1)学会としての方針等を検討する機関として「癌取り扱い規約委員会」を拡大強化することにし、向井万起男委員長を中心に検討していく、(2)共同編集が最も多い、泌尿器科学会と印税をこれまでの泌尿器学会への一括支払いから、病理学会、泌尿器学会へ個別に支払う方向で泌尿器学会と交渉を進めて行くことを確認した。泌尿器科学会との話し合いは向井万起男委員長と青笹理事長が当たることを承認した。(3)小児腫瘍組織分類図譜の印税の未払いの経緯については、上田財務委員長が経緯の調査を行うこととした。
6. 学術評議員の定年制について寺田副理事長を中心に、まず他学会の動向を調査することにした。
7. 国際交流委員会に設置される日中交流ワーキンググ

ループのメンバーが青笹克之理事長、笹野公伸国際交流委員長、松原修同委員、蓮井和久学術評議員(鹿児島大学)、範江林学術評議員(山梨大学)、森井英一学術評議員(大阪大学)に決定した旨、報告され、承認された。

8. 利益相反(COI)に関する学会内規定を学会として正式に定める予定である。昨年倫理委員会で作成された素案に、学術会議の案も参考にして、倫理委員会に引き続き検討を依頼している。
9. 故遠城寺先生の御夫人からの寄付の申し出を受けることとし、学会としての書式を整えることにした。上田財務委員長が寄附受付のフォーマットを作成することとした。
10. IHE-Jの会員継続と年会費値上げ(10万円)については、その必要性について、根本則道医療業務委員長に、学会にとってのメリットをふくめ、状況の確認することにした。
11. 第57回秋期特別総会前日に諸星会長がサテライトシンポジウムを企画していることについて、これを承認した。
12. 日本臨床腫瘍学会からのセミナー講師依頼については、本年度は、筑波大学の野口雅之教授を推薦することとし、今後は病理学会へ直接、依頼していただくようお願いする旨を野口教授より学会担当者へ伝えて頂くこととした。
13. 研究推進委員会からの提案
  - (1) 優秀ポスター発表者を顕彰することについては承認した。
  - (2) 更新時の生涯学習単位を5単位から10単位にすることについては、常任理事会としても賛成である旨、また参加を専門医の受験資格とすることについては今後の検討課題であるが、いずれの案件も病理専門医制度運営委員会に検討を依頼することにした。
  - (3) 修士課程在籍会員の会費値下げについては財務委員会で検討することにした。
14. 「研修手帳」の学会配布について、病理専門医制度運営委員長と事務局で手帳の形態など、具体案の検討を続けることにした。
15. 年会費未納者の取り扱い、特に議決に際して、議決権を認めるか否かについての検討を寺田副理事長を中心に行うこととした。

## 12. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました。

- 廣瀬 文男 学術評議員(平成22年8月16日ご逝去)  
 山本 務 名誉会員(平成22年12月5日ご逝去)  
 小出 紀 名誉会員(平成23年1月15日ご逝去)